

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	工業英語	
科目基礎情報							
科目番号		0212		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		制御情報工学科		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		工学英語 I					
担当教員		伊藤 立治					
到達目標							
・実用的な速度で工学英語を読める ・工学英語に関する英文での質問に英語で正しく答えられる ・工学英語に関する英作文ができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		実用的な工学英語の文を読める		基本的な工学英語の文を読める		基本的な工学英語の文を読めない	
評価項目2		実用的なレベルの英文での質問に答えられる		基本的な英文での質問に答えられる		基本的な英文での質問に答えられない	
評価項目3		実用的な工学英語に関する英作文ができる		基本的な工学英語に関する英作文ができる		基本的な工学英語に関する英作文ができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		【グローバル対応科目】 この科目は学修単位の科目なので、事前・事後学習として英文多読を自習課題とする。 基本的な工学英語を英語による説明を通して学ぶ。 企業での技術的な仕事に英語が必要であることを理解するため、エンジニアを講師として招き、実用的な英語を学ぶ機会とする。					
授業の進め方・方法		・授業は講義形式で英語で行う。教科書の例文には多くの和訳がついているので、英語での説明を理解できない場合は、それを参考にすること。 ・説明は英語で行うが、同時に図や説明の英文を黒板に書くのでノートをとること。					
注意点		・英文多読による毎日の英語体験を前提とした授業である。実用的な速度で英語を理解するよう努めること。 ・多読の実践状況も成績に加味するので、教科書の勉強以外にも、図書館で多読用図書を借りて読む努力をすること。(毎週読書量を確認) ・読書記録手帳には、日付、書名、YL、語数、累積語数、感想を全て正しく記録すること。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			授業方法、成績評価、多読の必要性を説明できる	
		2週	直線、角、曲線 三角形、四角形、円、楕円			直線、角、曲線、三角形、四角形、円、楕円などの表現を使える	
		3週	ピラミッド、立方体、らせん、平板			ピラミッド、立方体、らせん、平板などの表現を使える	
		4週	傷、割れ、孔 車輪、状態、相			傷、割れ、孔、車輪、状態、相などの表現を使える	
		5週	組成、乾燥、湿気			組成、乾燥、湿気などの表現を使える	
		6週	金属、半導体、絶縁体、細かい、粗い			金属、半導体、絶縁体、細かい、粗いなどの表現を使える	
		7週	前期中間試験				
		8週	薄膜、小球、寸法 長さ・重さ・角度の測定			薄膜、小球、寸法、長さ・重さ・角度の測定などの表現を使える	
	2ndQ	9週	空間における位置関係			空間における位置関係の表現が使える	
		10週	破損、傷、疲労、過労			破損、傷、疲労、過労などの表現が使える	
		11週	洞穴、空洞、硬い 敏感な、愚直な、宿題、成績			洞穴、空洞、硬い、敏感な、愚直な、宿題、成績などの表現を使える	
		12週	自動車、石油、家族 動き、方向			自動車、石油、家族、動き、方向などの表現が使える	
		13週	効果、現象、色、明るさ 電気炉、磁界、構成			効果、現象、色、明るさ、電気炉、磁界、構成などの表現が使える	
		14週	組立、カバーされた 管継手、数、量			組立、カバーされた、管継手、数、量などの表現を使える	
		15週	解析、合成、変化			解析、合成、変化などの表現を使える	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3		
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3		
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3		
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3		

			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	2	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	多読	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	10	0	10	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0